

居眠り運転防止シート

居眠り運転
防止シートの
イメージ図



「予兆」脈で検知

眠りに入る予兆をとらえてドライバーに知らせることが出来る自動車の「居眠り運転防止シート」を東大、大分大などの研究チームが開発した。研究チームは約1000人を対象に脈拍を計測。その結果、全員で、眠りに入る10分前に、脈拍計の波形が乱れ、振幅が大きくなるなどの特徴が表れた。

開発したシートは、背中位置に埋め込まれた二つの圧力センサーでドライバーの脈の波形をとらえる仕組み。大きな振幅が出た時に、自動的に警報を発するシステムを作れば、居眠り運転防止につながる。研究チームは5年以内の実用化を目指している。

一方、背もたれの角度を33度にすると、人の脳波や呼吸のリズムが規則正しくなり、疲れにくいことも実験で判明し、研究チームは今回のシートに採用した。

研究チームの金子成彦

・東大教授（振動工学）

は「ドライバーがただ座るだけで眠りの兆しを検知できる。特殊な機器を使わなくて済むシステムだ」と話している。

東大など開発